

平成 29 年度 第 1 回学校協議会

平成 29 年度府立野崎高等学校第 1 回学校協議会議事録

日時：平成 29 年 6 月 23 日（金）

15:20～16:50

於：本校図書室

司会：榊 教頭

記録：田辺元紀

檜原 凌

原 圭佑

【次第】

1. 校長挨拶
2. 出席者紹介
3. 会長選出
4. 学校より報告
5. 協議・意見交換
6. 会長より

0. 司会より

- ・ 資料確認

1. 校長挨拶

- ・ 学校協議会委員を引き受けていただいたお礼
- ・ 今年度より校長に赴任
- ・ 教諭の平均年齢が昨年度より 1 歳上昇
- ・ 経験年数 10 年目の教諭が 6 名おり、中心になって活躍してほしい。
- ・ 職場環境を整え、意識して労働時間を減少させたい。

2. 出席者紹介：司会

- ・ 資料名簿による委員紹介

- ・ 事務局メンバーの紹介
3. 協議会会長選出
- ・ 司会の指名で、会長を推薦
 - 委員全員承認
4. 学校からの報告
- ア. 学校経営計画について：石井校長
- ・ めざす学校の姿 「一人ひとりを大切にする学校」
 - 3つの重点目標
 - ① 生徒の自己実現を最大限に支援する学校
 - ② すべての生徒が安全・安心に生活できる学校
 - ③ 地域としっかり連携して生徒を育てる学校
- ・ 今年度の重点課題
 - ① 定員割れについて
 - 3年連続で定員割れになると、再編整備の対象となる。
 - 今後は広報活動を重点的に実施していく。
 - 数年前の学区撤廃により、北河内外へ行く生徒が増加している。
 - 本校の魅力を伝える広報活動が重要
 - ② 日本語支援が必要な生徒への支援の充実
 - ③ 家庭環境や生活に困難を抱える生徒への支援の充実
 - スクールソーシャルワーカーを活用した「居場所カフェ」の整備
 - 図書室を利用し、生徒たちの居場所づくりをめざす
 - 家庭環境が複雑な生徒が多く、外部人材と協働した組織的な支援が必要
- イ. 学校経営推進費について：首席
- Jump Up! PT
- 教員年数5～10年目の教員約30名が所属するプロジェクトチーム

「野崎高校 生徒全員 Jump Up! 作戦」 (H27)

- ・ 「ICT を活用した授業改善」をテーマに府教育庁より予算支援を受け、全ホームルーム教室にプロジェクターを設置した。
- ・ 今年度は事業3年目の集大成となる取組みを展開していく。
- ・ 1階職員室前にいつでも勉強に取り組める自習スペースを設置。
- ・ 相互授業見学「OPEN CLASS」や学校教育自己申診アンケートの協働分析などを実施。
- ・ 取組みの成果と課題について、他校などにも発信していく。

「野崎高校 生徒全員 Light Up! 作戦」 (H28)

- ・ 「自尊感情の育成」をテーマに府教育庁より2年連続で予算支援を受け、体育館の舞台照明装置を整備した。
- ・ 演劇に詳しい講師を招聘し、教職員向けに舞台照明設備の活用方法についての説明会を実施した。
→ 今年度は生徒が文化祭の舞台発表で活用できるようにしたい。
- ・ どの生徒にもそれぞれの場所でスポットライトが当たるように、文化祭や日常生活などのあらゆる場面で生徒が輝ける取組みを考え進めてく。

「野崎高校 生徒全員 KnockKnock! 作戦」 (H29)

- ・ 「グローバル人材の育成」をテーマに「広い視点で世界を考え地域に貢献できる人材」を育てるべく、図書室の書籍充実と環境整備を府教育庁に提案した。
- ・ 図書室の機能を活かした取組みを展開する。
→ 授業で図書室を活用し、調べ学習や発表活動などを進める。
→ また、悩みを抱える生徒が気軽にくつろぐことのできる「居場所カフェ」を図書室内に整備する。
- ・ 3年連続の予算支援とはならなかったが、上記の取組みを Jump Up! 作戦や、Light Up! 作戦とも連動させつつ、できるところから進めていくことにする。

ウ. 生徒指導部より

重点目標として

① 生徒会活動・部活動の充実

- ・ 実感としてこの2つは充実してきている。
- ・ クラス間・学年間のみではなく、学校全体として生徒会活動を実施できている。
- ・ 生徒リーダー研修等で本校のリーダーとなる人材の育成をめざす。
→ 大阪産業大学の施設を利用し、生徒会、部活動部員、体育大会応援団団長候補などが参加した。
- ・ Nozaki Revolution（地域清掃活動）
地域から感謝の言葉等もいただいております、今後も続けていく。
- ・ 部活動加入率
→ 1年生の加入率は昨年比で減少しているが、6月以降も随時入部しているため今後も一定数伸びてくると予想できる。
- ・ 人数が少ない部もあるが36ある部活動のうち、31の部が現在活動しており、稼働率は高いと言える。
→ 今後の加入率増加が期待できる。

② 生徒指導案件への迅速な対応

- ・ 学年だけではなく学校全体で情報を共有するシステムを構築していく。
→ 現在、校内の雰囲気は落ち着きつつあるので、さらに学校全体で生徒指導方針を共有しながら指導を進めていく。

③ 規範意識の向上

- ・ 校則を守らせるだけではなく、マナー面の向上をめざす。
- ・ スマートフォン、SNSなどの使い方や危険性について指導している。
- ・ 総合的な学習の時間等を通し、自転車の乗り方などに係る交通安全指導を実施している。
- ・ 生徒による挨拶運動等を実施し、挨拶にあふれる学校づくりを行っている。

④ 遅刻数の減少

- 学校のみでなく、保護者とも連携する。
- 今年度は、例年に比べ大幅に減少した昨年度とほぼ同じ割合で推移している。
- 特別強化月間などは実施していないが、例年遅刻数が増えだす6月の遅刻生徒数は減少している。

エ. カリキュラム・教科書について：首席

- 3年次の社会科選択科目について
平成30年度入学生より
「歴史探究」を新設する
→ 現状、大学等入試選抜における受験科目として社会科を必要とする生徒が少ないため。
「時事総合（公民：世の中の流れなどを理解する）」を新設する
→ ニュース時事能力検定に対応
*新学習指導要領の改定を見据え、新科目ではテーマ設定・資料活用・整理・発表等の探求活動を取り入れていく。
- 教科書選定について
現在、教科書選定中。第2回学校協議会で提示予定。

オ. 進路指導部より

- 主体的な進路選択をめざす。
→ 自身の進路実現に向け、チャレンジ精神や行動力を持って取り組むことができるよう自尊感情を向上させる。地域との関わりから自分にできることを考え、進路意識の向上につなげる。
- 進路行事等の報告
大阪産業大学キャンパス見学会（H29年6月15日）
進学希望者が大学で学ぶことやキャンパスライフ等に興味や関心を

持つ機会となっている。

→ 進学意識の向上につながっている。

小論文指導・面接指導（H29 年 6 月 19 日）

大阪産業大学から講師を招聘し、小論文・面接についてご指導いただいた。長時間にわたって丁寧に講義と模擬面接をしていただいたが、生徒たちも最後まで集中力を切らすことなく取り組むことができた。

- ・ 平成 28 年度の進学率に関して
昨年度、初めて進学率が就職率を上回った。
→ 昨年度卒業した 39 期生は、早期から体験型の説明会等、外部の進路行事に数多く参加した第 1 期目。生徒一人ひとりが進路選択に向け、早期から保護者と相談したことにより、希望進路の実現につながったといえる。
- ・ 企業訪問：
 - ・ 1 学期中間考査期間中、全教員が卒業生の職場定着支援と、今年度の求人動向の把握を目的に約 200 社の企業を訪問した。
 - ・ 卒業生と直接話をし、仕事の取組み状況や困っていることがないかを確認し、助言等を行った。卒業後も引き続き職場定着支援をしており、「開かれた野崎」をめざす。

カ. 人権教育推進委員会より

- ・ 基本方針
「人権は教育活動の根幹であり、全ての生徒が安全・安心に生活できる学校づくりをめざす」
- ・ 「総合的な学習の時間」を中心に人権に関する取組みを行っている。
- ・ 各学年で人権講演会等を実施。
- ・ 3 年生では、9 月 15 日に「車イスバスケットボール体験」を予定しており、障がい者理解を目的とする。

- ・ スマートフォン・携帯電話の取り扱い・言葉遣い・デート DV 等の問題にも取り組む。
- ・ 職員研修を通し、教職員の人権意識や資質向上をめざす。
- ・ 新転任者には学校周辺のフィールドワークを兼ねた研修を実施し、学校や地域に関する歴史や情報を共有している。

キ. 広報について：首席

- ・ インターネット等のブログを通し、中学生・保護者に対する情報発信を行っていく。
- ・ 地域連携のさらなる充実
 - ・ 写真部の生徒が地域情報誌「だいとう」の市民レポーターとなった。大東市のイベントを取材した記事が定期的に掲載されている。
 - ・ 本校卒業生が主催する「野崎プロレス」への参加を通じ、地域の方々と交流した。里山ボランティア部で製作した竹炭を地域の方へ配布したことも好評であった。
 - ・ 北条小中学校区の PTA や自治会の方々とともに「野崎まいり」の巡視を行い、本校教職員 16 名が参加した。
- ・ 周辺の小中学校との連絡協議会などで得た情報を教職員間で共有する。
- ・ 「全員広報」をテーマに全教職員で広報活動にあたる。
- ・ 高大連携

大阪産業大学との連携では、キャンパスツアー・小論文指導・キャリア講演などを通じて生徒の進路意識を高めている。
- ・ OSAKA スマホサミット 2017 における小中高大連携
 - ・ 生徒会から参加した 2 名の女子生徒がとても積極的に活動しており、普段とは違った一面を見ることができた。
 - ・ 小学生にスマートフォンの使い方を教えるにはどのような教材がいかなどを他校の児童生徒と検討した。
- ・ 生徒・保護者のブログ閲覧率が低いのでどのように発信していくのか

が今後の課題である。

5. 協議・意見交換

会長：一人一言ずつお願いします。

委員：様々なことを実施していると感心している。SNSなどの問題も、高校だけではなくて、小中高全てが関わっていると実感している。

委員：毎年生徒を野崎高校に進学させているが、様々な課題を持つ生徒たちへの支援が手厚いと実感している。引き続き、支援・配慮等をお願いしたい。本校へ進学した生徒たちが、少しずつ中学校へ顔を出さなくなりつつあり、高校に慣れてきたと安心しているが、少し寂しくもある。

委員：様々なことを実施しており、非常に上手く学校を回していると感じている。教員が入れ替わっても、実施してきたことを引き継ぐシステムを構築してほしい。教員になりたいという学生が大学でかなり増えている。高大連携という面で、教職課程を履修している大学生たちに、野崎高校の教員から、細かな仕事の内容などを教えていただければと思っている。

会長：今年度定員が割れているが、それに対してはどう対処していくか。

委員：2名程度割れたくらいは、そんなに問題ないのではないか。

委員：3年連続で定員割れした場合、再編整備の対象となってしまうので何らかの対策は講じていかないといけない。先生らが高校生に対して野崎高校の良さをアピールするのも良いが、本校の在校生から中学生に向けて何か話ができる機会があればいいのではないか。

委員：本当に志願者を増やしたいのであれば、学校だけではなく、塾訪問を行ったりとするのもいい策だと思う。

委員：毎日どの程度ブログが閲覧されているのかを見つつ、良い発信を続けていくべき。

委員：太鼓集団の「魁」によって、野崎高校と繋がることができている。この人権教育のおかげで、校外でも声をかけられることがあり、その中で生徒から人権教育についての話が上がることもあり、教育の効果が見られ

で嬉しく思う。また、部落差別解消法の施行により、「同和」という言葉ではなく、「部落」という言葉を使うようになったので、人権教育の内容も変わってくるであろう。また、小中学生に開放している「100円塾」というものがあり、100円でご飯を食べ、その後に勉強をする塾を運営している。ぜひ、野崎高校の先生方にも顔を出してもらえたら嬉しい。

会長：若手教員を中堅・ベテラン教員がひっばっているという年齢的にバランスのいい形になっており、それが生徒にもいい影響をもたらしているのではと考えている。それは生徒指導部・進路指導部の資料からも見て取れる。KnockKnock!作戦などを中心にして、なかなか集団に馴染めない生徒や、勉強を頑張りたい生徒などに対する手厚い支援をし、図書館などを積極的に利用して今後とも頑張っていってほしい。